

## Y07b 「トライやるウイーク」と兵庫県立西はりま天文台公園の取り組み

佐藤友美（兵庫県立西はりま天文台公園） 他兵庫県立西はりま天文台公園スタッフ一同

兵庫県では、県内の中学校2年生が1週間、地域の人々の指導を受け、職場等で活動する「トライやるウイーク」という長期体験学習を1998年から導入している。この活動が始まった背景には、1995年1月の阪神・淡路大震災や1997年に神戸市で起きた中学生による痛ましい事件があった。それ以降、兵庫県教育委員会では「心の教育のありかた」について検討するため「心の教育緊急会議」を設置し、活動や体験を通して、子供たち一人一人が自分なりの生き方を見つけられるように支援していく教育に力を入れている。

兵庫県立西はりま天文台公園では、県立の社会教育施設として、「トライやるウイーク」の開始当初から、地元の中学生を受け入れている。今年度は、5月31(月)から6月4(金)までの5日間、地元佐用町内の中学校から3人の生徒が、西はりま天文台公園にやってきた。宿泊施設もあれば、天文台もある、大きな複合施設である当公園の仕事は、実に多種多彩であり、多くの人々の仕事によって成り立っている。その特徴を活かして宿泊施設や公園の管理をする「管理棟」と天文教育・研究活動をする「天文台」とで、仕事のプログラムをそれぞれ工夫し、中学生に体験してもらった。

特に「西はりま天文台」では、私たち研究員と同じように「なゆた望遠鏡」を使った観望会が、5日間できるように挑戦してもらおう！というコンセプトのもと、活動や学習プログラムを工夫し、できるだけ多くの大人（研究員）に関わってもらいながら、5日間で一人前の「トライやる研究員」になる経験を積んでもらった。どんな学習プログラムを提案し、中学生に体験してもらったのか、またその体験から生徒たちがどのように5日間で成長していったのか、本講演とポスターで詳しくご紹介する。